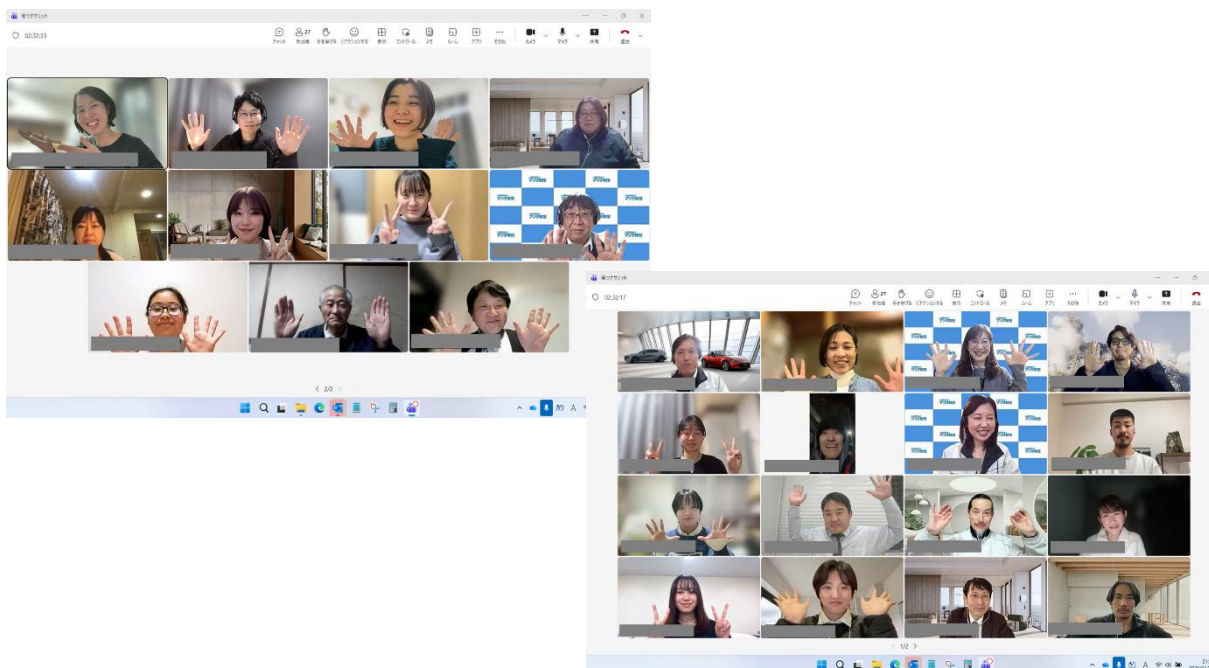


若ツナサミット実施報告

2026年1月27日（火）の19:00から20:30に、第5回若ツナサミットをオンラインで開催しました。



「若者×ツナグバ」は、若者が、今の社会に希望を持ち、自立していくことを支援する事業です。そして、この「若ツナサミット」は、その目的のために、若者×ツナグバに参加した2団体の成果報告会を兼ねて、参加する若者たちと意見交換する場です。

参加者は、今年度の支援 団体 5 団体 7 名、アドバイザーや若者を含む市民団体の皆さまや一般参加者にマツダ財団を加えた総勢 27 名が集いました。

19:00 に開始し、まず、最初に参加者全員を紹介し、続いての第一部は今年度参加の 5 団体による活動成果報告を、次の順番で行いました（発表 7 分、質疑応答 3 分）。

- ① koko ilo（ココイロ） 広島市安芸区 大学生団体
ユースクリニック ～サードプレイス×学びの場～
- ② 結～YUI～ 東広島市 大学生中心
2025 年度結～YUI～日本語教室イベント
- ③ まちもゆ 山県郡北広島町 大学生中心
WASA banquet（わさばんけつと）野外音楽ライブ
- ④ 7 hours club 広島市 社会人中心
ヘルスケア活動を行う若年層のコミュニティ形成・農業支援

⑤ 上島未来共創隊 豊田郡大崎上島 大学生・大学院生中心
上島共創ワークショップ

各団体、今年度の取り組みについて発表しました。その後、質疑応答の時間を設け、各団体、自分たちが日ごろ考えていることや苦労した点、工夫していること、今後の展望などについて活発な質疑応答がなされました。

続いて、第二部の意見交換会に入りました。

今年度のテーマは2つ。

「自身の興味関心を社会貢献へ繋げるためには？」

「持続可能な組織運営のために、チームワークを高める方法は？」

最初に、なぜこのテーマを選んだか理由を紹介した後、4つのブレイクアウトルームに分かれて30分程度のグループディスカッションを行いました。リーダー（ファシリテーター）とサブリーダー（書記・発表）は、各団体のメンバーが努めました。各ルーム参加者の自己紹介を行い、ディスカッションに入りました。短い時間ではありましたが、学生と社会人が入り交じり色々な意見が出されました。グループディスカッション終了後、全体に戻って、各グループで議論された内容を発表してもらいました。

〈各グループの意見交換の主な内容〉

① 「自身の興味関心を社会貢献へ繋げるためには？」について

さまざまな立場から意見が交わされました。議論を通して、社会貢献は決して特別なものではなく、個人の「好き」や「やってみたい」という気持ちから、自然に広がっていくものである、という共通の認識が共有されました。

〈主なコメント〉

- ・自分の興味・関心のあることに対して、まずは行動してみることが大切であり、考える前に「飛び込んでみる」姿勢が、社会との接点を生み出す。
- ・熱意を持ってやりたいことに取り組むことで、結果的に社会課題の解決につながる人が多い。無理にやりたくないことを選ぶよりも、「好きなこと」から社会と関わる方が、本人にとっても社会にとっても前向きである。
- ・興味関心に基づいて活動していく中で、結果として社会貢献につながっていた経験がある。
- ・楽しいと感じる活動や、何らかの形で関わり続けていること自体が、社会貢献につながっている場合も多いのではないかと。
- ・社会貢献につながらない活動はほとんどなくて、多くの場合、その価値に本人が気づい

ていないだけではないか。

- ・自分のやりたいことに気づけていない人もいる中で、「若者×ツナグバ」のような場があることで、活動がより大きな社会的広がりにつながる可能性があるのではないか。
- ・活動を発表したり、評価してもらったりする機会があることで、次の一步への意欲や、活動の継続につながる。
- ・地域のつながりを深めていくためには、世代を超えた参加が欠かせず、若者の熱量が周囲に伝わることで、地域全体が動き出すきっかけになる。
- ・自治体や地域の場に若い人が関わることで、その変化に共感した人々が集まり、新たな動きが生まれていく。
- ・社会課題そのものからアクションを考え、共感してくれる仲間を集めていく方法も、有効なアプローチではないか。
- ・幼少期に自然の中で遊んだ経験を、今の子どもたちにも伝えていきたいという思いから、自分の子どもを起点に活動を広げていくと仲間が増えるのではないか。
- ・「好きな人が集まる場」をつくること自体が、結果として社会貢献につながっていく。
- ・活動する側だけでなく、それを支え、応援する側の存在も重要であり、社会全体が前向きに盛り上がっていくことが大切である。
- ・若い世代の行動や声を大人世代にしっかり伝えていくこと、そして大人側がそれを受け止め、受容する姿勢を持つことも大事と思った。

② 「持続可能な組織運営のために、チームワークを高める方法は？」について

団体やプロジェクトを円滑に進めていくための関係性づくりや、組織としての在り方について、さまざまな意見が共有されました。活動を続けていくうえでは、想いの共有だけでなく、柔軟さや人とのつながりも重要であることが示されました。

<主なコメント>

- ・先輩・後輩といった立場に関わらず、お互いにきちんと意見を言い合える関係性を築くことが大切と思う。
- ・活動の中心となる人や、トップと同じ思いを共有している存在がいることで、活動が進めやすくなるのではないか。
- ・組織として、理念や目的をきちんと「言葉」にしておくことが重要だと思う。
- ・ビジョンやミッションを持って取り組むことで、活動の方向性が明確になる。
- ・理念への共感は欠かせず、代表個人のビジョンというよりも、「活動そのもののビジョンや趣旨」に共感してもらうことが大切ではないか。
- ・代表と副代表といった役割分担があることで、組織として機能しやすくなるが、いないと活動が停滞する。

→ 指示待ちにならない体制をつくるのが大切。代表は前に立つだけでなく、場づくり

など裏方として支えることで、メンバーがいきいきと活動できる。

・そもそも、活動は必ずしも「ずっと続けなければならない」ものではなく、その時々
のメンバーで楽しみながら取り組むことが、個人の成長につながるのではないか。

・さまざまな団体同士がつながることも重要であり、いろいろな行事や活動に参加して
人とのつながりを増やしていくことで、より大きな活動へと発展していくと思う。

・自分たちが熱量を持って取り組むことが、次のつながりや広がりを生むきっかけになる
と思う。

ご参加いただきました皆さま、誠にありがとうございました。

来年度の「若者×ツナグバ」は、支援対象者を少し変更し開催する予定です。募集は弊財
団のホームページ等で行う予定です。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

(本郷)